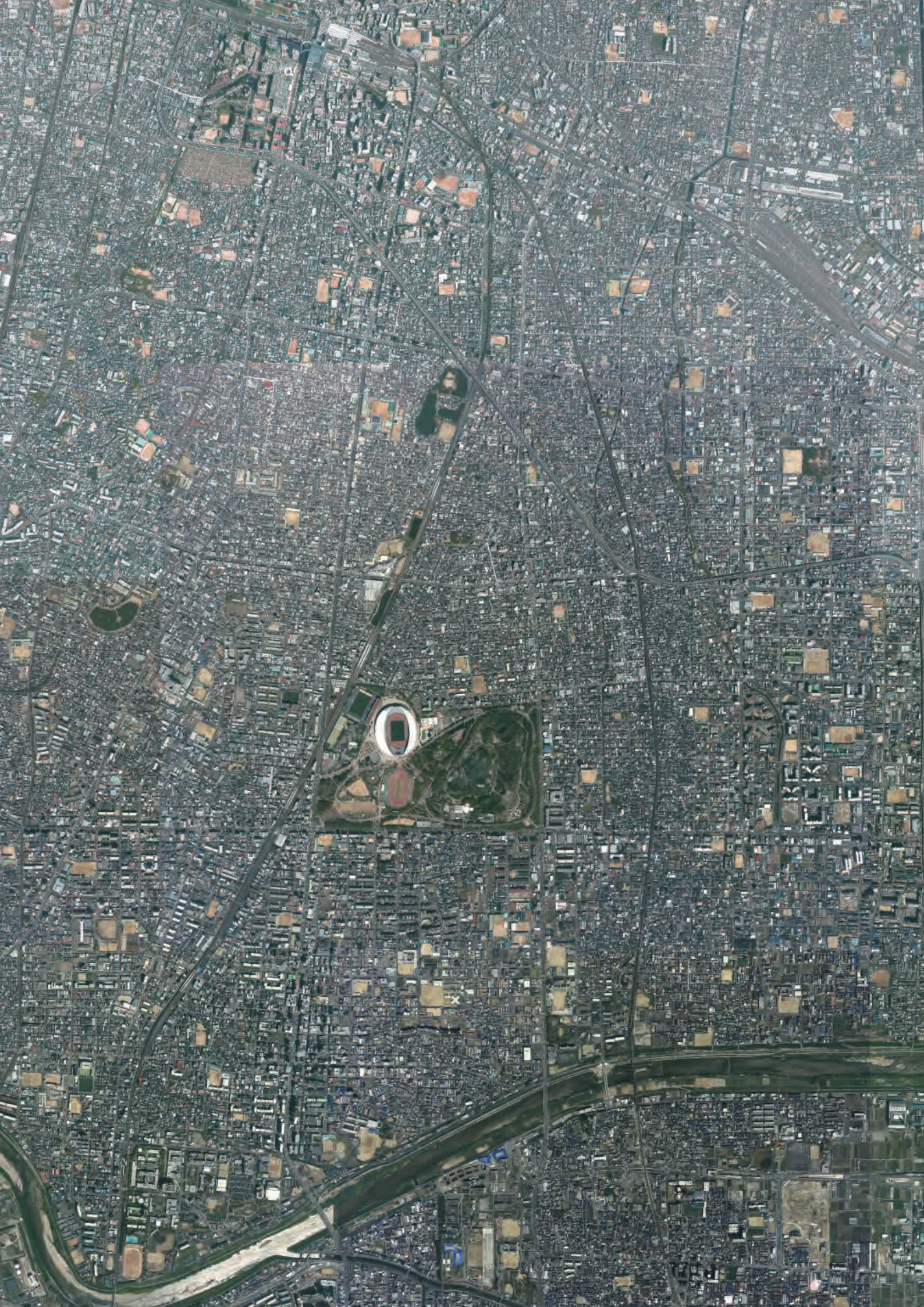






Ⅱ 区の「いま」を捉える

本章では、東住吉区のまちづくりを考えるにあたり、現在の区の状況を分析し、まちづくりにおいて対処すべき課題や、活かすべき資源について整理します。

- 区の概要
- 将来予測 「都市のスポンジ化」
- 区が抱える資源と課題
 - 【住宅】 良好な住宅ストックの充実
 - 【歴史・文化】 歴史を醸す旧村のまちなみ
 - 【交通】 良好な都心アクセス
 - 【農】 都心近郊の農空間の残存
 - 【スポーツ】 スポーツのまちづくりの推進
 - 【公園・緑地】 長居公園を中心とした公園体系
 - 【生活】 地域コミュニティの機能低下
 - 【防災】 大規模災害の不安
- 周辺区と共通する課題
- まとめ

現在の区の航空写真*

区の概要

【位置】

- ・東住吉区は、大阪市南部に位置し、区域の東西は約 2.8km、南北は約 6.4km で、面積は 9.75 km²、大阪市で 8 番目の大きさをもつ行政区画です。
- ・東は平野区、西は阿倍野区・住吉区、北は生野区、南は松原市に隣接しています。

【地勢】

- ・東住吉区は、上町台地の東側の河内低地に立地しています。区の中央には今川・駒川が流れる谷が南北に延び、旧大和川が形成した氾濫平野が区の大部分を占めています。区域の北東部は平野川が流れています。また、東住吉区の南縁には大和川が西に流下します。西縁も谷地となっており、いくつかの池が南北に線状に並んでいます。

【まちなようす】

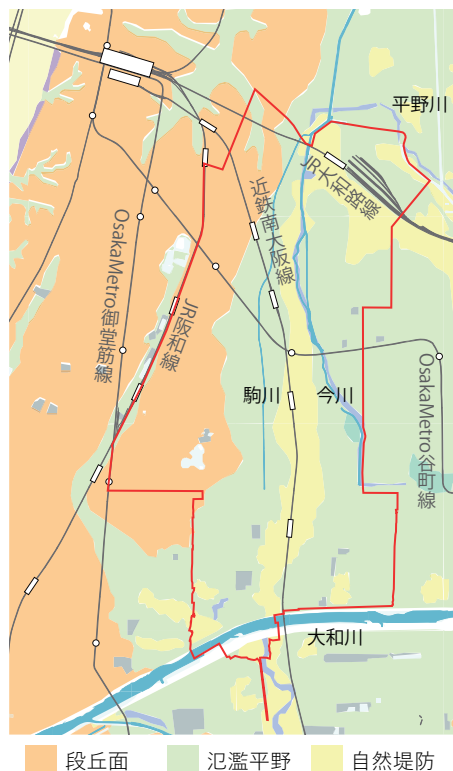
- ・区域の約 90% は閑静な住宅地域で、JR 大和路線・JR 阪和線・近鉄南大阪線・OsakaMetro 谷町線の 4 路線が乗り入れ、区の西側を OsakaMetro 御堂筋線が走っています。それぞれの駅付近には商業地域を形成しています。

【人口動態】

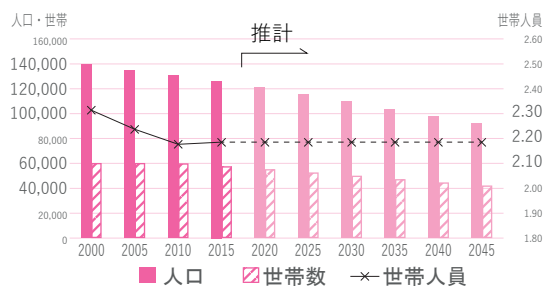
- ・鉄道路線が充実しており大阪都心へ出るのに便利な場所であることから、近年、集合住宅やワンルームマンションが増えていますが、区全体としては**人口減少が続いており、高齢者及び高齢世帯の占める割合が年々高くなっています**。この傾向が続くと、2020 年現在 13 万人程度の人口が、2040 年には 10 万人を割る見込みです。
- ・区の大部分を住宅用途が占めているため、人口減少がまちの土地利用や行政サービスに与える影響は大きいです。こうした人口減少とそれに伴う交通サービスの低下等の諸問題は全国的なトレンドであり、従来型のように**人口の増加を前提としないまちづくり**が求められています。
- ・世帯数はここ数年は凡そ横ばいとなっていますが、今後は人口減少に伴い、減少していくことが予想されます。



区の位置



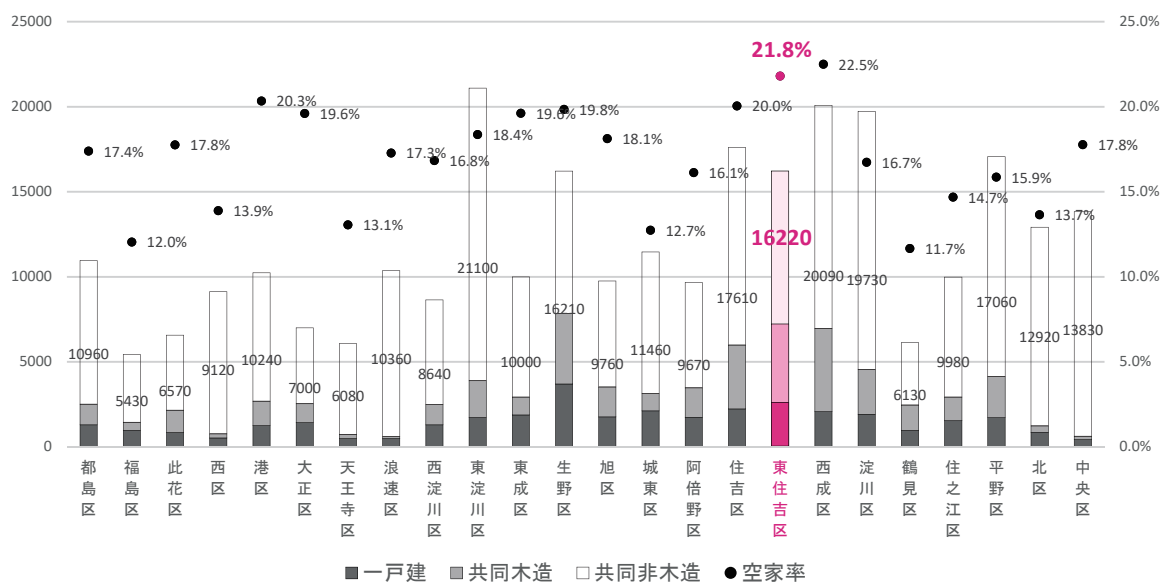
区の地形区分 *



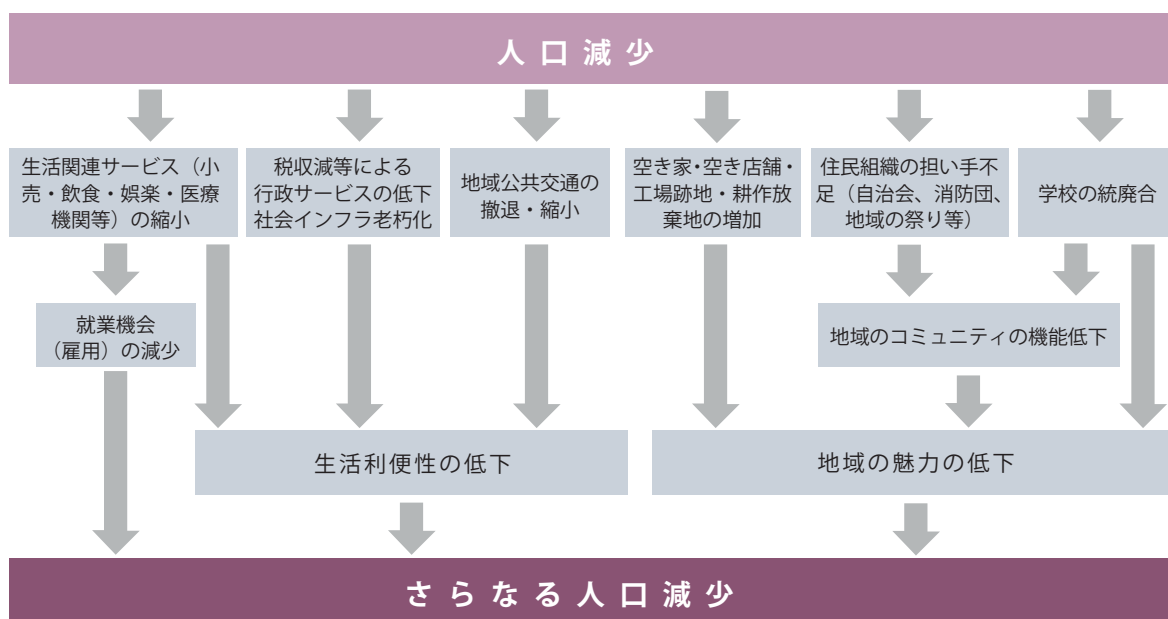
区の人口動態と予測 *

将来予測「都市のスポンジ化」

- ・全国平均よりも空家率の高い大阪市において、東住吉区は**空家率**が西成区に次いで高く、21.8%となっています。
- ・こうした空家の時間的・空間的ランダムな発生が都市の低密化・非効率化やサービス低下、ひいては生活利便性の低下と地域の魅力の低下を引き起こし、それが更なる人口の減少に拍車をかける悪循環現象である「**都市のスポンジ化**」が今後深刻な問題として顕在化してくることが予測されます。これは全国の多くの自治体が抱える課題であり、東住吉区は課題先進区として、他区に先駆けた対策が求められているといえます。



大阪市各区の空家率と空家戸数（H30）*



「人口減少の悪循環」のイメージ*